慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	公的な謝罪の場面における談話構造と表現形式の研究
Sub Title	
Author	姜, 茹楠(Kyo, Jonan)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2018
Jtitle	日本語と日本語教育 No.46 (2018. 3) ,p.110- 110
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20180300-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』46：110（2018.3）

〔大学院文学研究科修士論文〕

公的な謝罪の場面における談話構造と表現形式の研究

姜　　茹　楠

これまで配慮表現の中に見られる謝罪の研究は会話を対象にするものが多く、公的な場面で、一方的に発信する謝罪についての研究がほとんどなかった。

本稿ではテレビやラジオで放送された記者会見での謝罪や、番組内での謝罪、また、囲み取材での謝罪を材料とし、公的な場面における謝罪の談話構造と表現形式について分析したものである。

まず、記者会見をおおむね三つに分けた。「自分の過ちに対して謝罪する場合」、「身内の過ちに対して謝罪する場合」、「組織として謝罪する場合」である。記者会見で謝罪する場合の談話構造は主に、

会見開始の挨拶→会見開催の主旨説明→謝罪→事情説明→謝罪→質疑応答→会見終了部分の謝罪・反省→しめくくりの一言

のようなモデルになる。謝罪表現は「ご迷惑をおかけしました」、「ご心配をおかけしました」などの描写系から始まり、「お詫び申し上げます」などのような遂行系の後、「本当に申し訳ありませんでした」などの表出系の謝罪表現で終わる例が多く見られた。

次に、番組内で謝罪する場合を取り上げた。番組内で謝罪する場合の談話構造は記者会見よりシンプルになり、

冒頭部分の謝罪→反省・感謝→終了の挨拶

とモデル化される。また、謝罪するときに使われる表現は二通りに分かれ、当事者は描写系、司会者は遂行系の表現を使う例がよく見られた。

最後に、囲み取材で謝罪する場合を取り上げた。囲み取材で謝罪する場合の談話構造は、

冒頭の挨拶→主旨説明→謝罪→質疑応答→終了の謝罪

のようにモデル化される。また、この部分で使われた謝罪表現は「ご迷惑をおかけしました」、「ご心配をおかけしました」などの描写系から始まり、「お詫び申し上げます」などのような遂行系、「本当に申し訳ありませんでした」などの表出系の謝罪表現で終わる例が多く見られた。

本稿では記者会見、番組内、囲み取材という公的な場面での謝罪について、その談話構造と表現形式を分析してみたが、分析対象とした事例は番組や会見を録画したものを使用したので、用例数が限られている。したがって、本稿で出した結論はすべての公的な場面での謝罪に適用できるかどうかはまだ検証する必要があると思う。